

令和6年度 学校評価アンケート（中間評価）結果について

1. 生徒アンケート集計と分析

生徒

質問項目	重要度	実現度
授業に必要な準備をし、前向きに授業に参加している。	6.3	5.3
授業の内容がよくわかる。	6.2	4.9
平日、課題の取組や家庭学習（塾や家庭教師の時間を含む）に、平均して1日1時間以上取り組んでいる。	5.6	3.6
1日平均30分以上（朝読書を含む）読書をしている。	4.6	2.6
学校に行くことが楽しい。	6.3	5.4
学校の決まりや約束事を守っている。	6.1	5.5
係やそうち、委員会の仕事をしっかりできている。	6.3	5.9
先生や友だちから大切にされていると感じている。	6.2	5.5
友だちに嫌な思いをさせないようにしている。	6.6	5.8
礼儀や言葉遣いに気をつけている。	6.3	5.4
困ったことは、先生や家族に相談している。	6.1	4.9
自分から進んであいさつをしている。	6.1	5.1
早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活が出来ている。	6.4	5.0
家族と過ごす時間を大切にしている。	6.3	5.7
スマホ、タブレット、ゲーム等の使い方や時間について、ルールを決めて使用している。	5.4	3.9
家の手伝いをするなど、家族の一員としての役割を果たしている。	6.0	4.7
学校からの配布物を保護者に渡している。	6.3	4.8
いじめなどで困った時に相談できる「いじめ対策委員会」が学校にあることを知っている。	5.9	3.6
学校がいじめに対して取り組んでいることを知っている。	6.0	3.9
将来の夢や目標を持っている。	6.0	4.6

※実現度が高い項目の順に上から並べてあります。

○数値の計算方法について

重要度「とても重要である」…7「やや重要である」…5「あまり重要でない」…3「重要でない」…1

実現度「とても出来ている」…7「やや出来ている」…5「あまり出来ていない」…3「出来ていない」…1

アンケートのご協力ありがとうございました。

今回のアンケート結果で、「重要度」「実現度」が共に低かったのが、「家庭学習」「読書」「スマートフォンなどのルールについて」の項目でした。「平日の家庭学習、1日1時間以上」という項目では、重5.6p（実3.6p）「30分以上読書をしている」では重4.6p（実2.6p）「スマホなどの使い方やルールを決めている」では重5.4p（実3.9p）と低く、いずれも「実現度」は保護者の結果と同じような傾向にある。しかし「重要度」は保護者と生徒の数字に隔たりが見え、保護者の思いと子供たちの思いの差が数字に表れているように思う。学校生活に関する項目の中で「係やそうち、委員会の仕事をしっかりできている」は、重6.3pも高く（実5.9pも高い）。また、「友達に嫌な思いをさせないようにしている」では重6.6p、（実5.8pと共にこちらも高い）。この数字からしてもほとんどの生徒が、責任感を持って学級での仕事をこなそうとし、周りとの関係を大切にしようと考えていることがうかがえる。また、「家族と過ごす時間を大切にしている」という項目で重6.3p（実5.7pと共に高く、ほとんどの生徒が家族との時間を大切にしたいと考え、それを実現できていることがうかがえます。最後に、今年度より追加した「将来の夢や目標を持っている」について、「全国学力状況調査」の中でも3年生が同様の質問を受けており、全国の7割が肯定的な回答をしています。本校での実現度は4.6pとなっており、約6割程度の数字と考えられます。1,2年生も合わせた数字という事を考えると、比較的肯定的な数字と考えられます。しかしながら、将来の夢や目標を実現するための力が身についてるかという点には課題もあり、今後の学校目標にもなると考えます。

2. 保護者アンケート集計と分析

保護者

質問項目	重要度	実現度
子どもに、授業に集中して取り組むように働きかけをしている。	6.5	4.5
子どもが学習内容をどの程度理解しているかをテスト結果や家庭学習などを通して把握しようとしている。	6.4	4.5
子どもに、家庭学習（塾や家庭教師の時間を含む）の習慣が定着するよう働きかけをしている。	6.2	4.1
子どもに、読書の習慣が定着するよう働きかけをしている。	5.6	2.9
子どもは楽しく学校に通っている。	6.8	5.2
子どもに、決まりや約束事を守るよう働きかけをしている。	6.7	5.2
子どもが、先生や友だちから大切にされていると感じている。	6.7	5.1
子どもに、友だちを大切にするよう働きかけをしている。	6.7	5.5
子どもに、礼儀や言葉遣いに気をつけるよう働きかけをしている。	6.6	4.9
子どものことについて、保護者が学校に相談しやすい雰囲気がある。	6.4	4.6
子どもに、自ら進んであいさつするよう働きかけをしている。	6.5	4.7
子どもが早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活ができるよう働きかけをしている。	6.6	4.7
家族で過ごす時間を大切にしている。	6.4	5.2
子どものスマホ、タブレット、ゲーム等の使い方や時間について、ルールを設定している。	6.2	3.8
子どもに家族の一員としての役割（家の手伝いなど）を作るようになっている。	6.1	4.2
学校からの配布物やホームページ等で、学校の様子が伝わってくる。	6.3	4.6
学校行事や授業参観、PTA活動等に積極的に参加するようになっている。	5.0	4.0
いじめなどで困った時に相談できる「いじめ対策委員会」が学校にあることを知っている。	6.5	3.2
学校いじめの防止等基本方針があることや、いじめに対して取り組んでいることを知っている。	6.4	3.2
子どもが将来の夢や目標を持っている。	6.1	4.0

※実現度が高い項目の順に上から並べてあります。

○数値の計算方法について

重要度「とても重要である」…7「やや重要である」…5「あまり重要でない」…3「重要でない」…1

実現度「とても出来ている」…7「やや出来ている」…5「あまり出来ていない」…3「出来ていない」…1

アンケートへのご協力ありがとうございました。

今年度のアンケート結果も昨年度と同様に「読書」に関する項目で数値が低くなっています。令和5年度の「読書の習慣」については実現度が 2.9p と最も低く、今回の結果も同様のポイントとなり、低い状態が続いている。社会的にも、小中学生の読書時間が短くなっていると統計を出しているメディアもあります。特に平日の読書時間が「0」という結果もあります。その背景には、スマートフォンの普及が影響していると考えられています。長時間の使用が日常化しているようで、今回のアンケートでも「スマホ、タブレットなどの使用にルールを設けている」という項目では、実現度が 3.8p と低迷しています。この結果からも、普段の生活の中で「読書」や「家庭学習」での時間が減少し、スマートフォンなどの使用時間が増えているという結果がうかがえます。スマートフォンなどのデジタル機器の使用は、非常に便利で、これからの未来には必要不可欠なもので、そのスキルも子供たちには必要です。しかし、その利用を間違い、トラブルを起こしているのも事実です。アンケート項目で「いじめ」に関する内容の中で、「いじめで困った時に相談できる「いじめ対策委員会」が学校にある事を知っている。」**重6.5p** 「学校いじめの防止等基本方針があることや、いじめに対して取り組んでいることを知っている。」**重6.4p** と重要度はどちらも非常に高いのですが、実現度は低い数値 3.2p になっています。最近の生徒間トラブルでは、SNSが関わっているケースがほとんどです。そこから「いじめ」に発展してしまう事もあります。このような目に見えにくいトラブルの解決には、家庭の協力も必要です。また、学校での「情報モラル」教育も必要です。家庭と学校の風通しをより良いものにし、より安全に安心して子供たちが登校できる環境を作りたいと思います。